



# 殺人可恕

## 情理難容

陳紹馨

ある。

子供の時芝居へつれて行つて買つたことがあつた。あんまり面白くないから、歸らうと謂つたが一向に勧いて下れない。ねむいからもう歸らうよとせがむと、待て々々、今に奸臣が死ぬから。奸臣が死んだら歸らう、となだめて下れた。奸臣が死なないうちは観衆はどうしても散らない。因果報し悪玉の惡逆が積り積つてついに惡逆に倒れるのを見とけて始めて観衆はほつとして歸つて行く。

あんまり演技がうますぎた點に奸臣がなぐられてしまつたことがあつたとのことである。

路過不平、氣死閉入、路傍で見かける悪逆が通りすがりの人を憤慨せしめる。之も奸臣未死、看戲的不敵と同巧異曲である。

元來が芝居である。惡玉が死なうか死ぬまいかどうでもよいではないか。又たとひ芝居でなくして現實の劇場で演ぜられるものであるにしても、人々自分と何等ゆかりのないものであるから演者を感じない筈である。ところがそう行かないのは一體どうした所であらうか。

道理を疎闊されではこの世はくらやみだ、といふ心事が傍聴者をいきりたさせているのである。この道理が大事である。道理は皆に共通するものである。芝居の諺にも「情理是公衆的」といふのがある。「是公衆的」は各人に妥當することを意味するのみでなく、更に社會學者デュルケムが社會事實について説明してゐる

様に、各個人に對して外在的でありそして各個人を拘束してゐることをも意味してゐる。入れかはり立ちかはり個人が轉々しても道理は既然として存在してゐる。個人が從順である間は別に表面に現れないが、ひと度これに背く時道理はすぐその威力を發揮する。同一社會に生活する人は共にこの道理になつてゐる。一見何のゆかりもない人もその實この道理によつて結びつけられてゐるのであり、未知の人の行爲が我等を憤慨せしめるのは彼と我とが共になつてゐる、この道理を彼がふみにちつて爲に他ならぬ。そしてたとひ現實でなくして芝居の如き架空の上でも、道理が疎闊されるのは際遇し得ないことである。それ程に道理は大事なものである。殺人可恕、情理難容、人殺しは小事であるが道理を疎闊されるのはゆるしがたい。道理は人命よりも更に大事なものである。

人命よりも大事なこの道理の正體は一體どういふものであらうか、簡単にいへばある社會秩序に基いて發生する社會規範と謂ふことが出來やう。破竹の勢で皇帝が大陸の一角を陥落せしめた。先づ最

初に行はれるのは何であるかといふと、治安維持會の組織である。地方の住民に秩序を與へ、もの事の處理に一定の順序をふましめて始めて共存生活が可能であり、社會が存在する。複雑な社會生活の運営に種々のしきたり「種々の規準」があつて各人皆この規準に従つて行動して始めて平和な生活が營まれるのである。この「しきたり」規準を無視して各々勝手に横行するならたゞまない爭闘競争が行きはれ、もはや社會は存せず猛烈の雜居にすぎない。個人の身命は常に危険にさらされて一時たりとも安んずる事が出来ない。因爲太平犬、不爲亂世民、太平の世の大に生れても亂世の民には生れたくないといふ心理も又無理からぬところである。そして道理（情理）といふ言葉で現はされてゐる社會秩序、社會規範が人命よりも大亦である所以も此處に存してゐる。鬼頭がいくら奮起しても殺すものはせい／＼十人二十人に止まるがひと度社會規範が蹂躪され社會秩序が動搖せしめられるや、無數の人の安危が宙によよふのである。

殺人可恕　情理難容  
社會生活の眞理を道破して餘りある諺  
である。

## 初秋の銀幕を飾る優秀名画陣

其他在庫豊富	張羅月虎雄主演	漁光曲（漁火）	怪人ブリーム博士	幽靈帆船	サンドボルト	リビヤ白騎隊	蘭印度	僞れ唇

三映社提供の國策映畫

全國民必見の異色篇

アキシリ・ローラン主演

アルビニア・ランツ主演



電話八八六八番

北臺市平太町ノ九

## 亞東映画配給社